

活動報告

2011年3月14日(月)～4月30日(土)
延べ48日間



我孫子市災害救援ボランティアセンター

社会福祉法人 我孫子市社会福祉協議会

1. 被害の概要

平成 23 年 3 月 11 日（金）14 時 46 分 東北地方三陸沖の深さ 24km マグニチュード 9.0

地震及び津波により、東北地方を中心に死者・行方不明者が 22,810 人を超え、家屋などの建物被害は 104,375 棟が全壊、100,325 棟が半壊。また、256 棟が全半焼、11,389 棟が床上浸水、11,695 棟が床下浸水、一部破損は 383,632 棟に及んでいる（6 月 24 日現在）。また、福島県東京電力第 1 原子力発電所の事故による放射能漏れなど過去に例のない甚大な被害が発生している。

我孫子市においては、14 時 48 分に震度 5 弱を記録し、同 15 時 15 分にも震度 4 の余震が発生した。

当日の救急搬送 5 件、家屋や塀に約 450 件の損壊、公共施設は、90 施設に被害があった。

なお、3 月 24 日付（地震発生後 13 日後）災害救助法適用地域として我孫子市が指定された。

【ライフラインの状況】

- ①電気 停電 2,800 件（布佐は 3 月 12 日・他は 3 月 11 日未明に復旧）
- ②ガス 東日本ガスを遮断（3 月 12 日未明に復旧）
- ③水道 1,891 件（3 月 18 日までに復旧）
- ④道路 塀の倒壊等により市内各所で交通支障。布佐で 2 カ所通行止め
（国道 1 カ所 3 月 25 日復旧 県道 1 カ所 4 月 18 日復旧）
- ⑤鉄道 常磐線 運転見合わせ（3 月 12 日復旧…ダイヤに乱れ）
成田線 路線陥没（成田～木下間）運転見合わせ
（3 月 21 日復旧したが、9 割減による運転…その後 4 月に通常運転へ）

【避難所開設の状況】

3 月 11 日夕方から、

①アビスタ及び近隣センター11 カ所で最大 286 名を受入

②けやきプラザ（我孫子駅南口）で帰宅困難者の受入

けやきプラザは、帰宅困難者が多く 130 名、翌 12 日に閉鎖。

アビスタ・我孫子北近隣センターは 3 月 17 日まで、

ふさの風は、3 月 25 日までに閉鎖。

なお、布佐中学校生徒 7 名受入、並木小学校も数名受入があった。



布佐都地区（I 工房）

【県外避難者受入 つつじ荘避難所】

3 月 21 日（月）～4 月 30 日（土）まで開設

県外避難者 14 名を受入



けやきプラザ（帰宅困難者避難所）

2. センター設置の経緯

- 3月11日（金）15:00 我孫子市災害対策本部 設置
- 3月12日（土）我孫子市災害対策本部において被害状況の確認
災害救援ボランティアセンター設置の必要性について検討
- 3月13日（日）我孫子市災害対策本部より、
災害救援ボランティアセンター設置要請
- 3月14日（月）9:00 我孫子市災害救援ボランティアセンター設置（66時間後）

3. 設置場所・期間

- 我孫子市社会福祉協議会 事務局内
住所：千葉県我孫子市我孫子 1861
電話：04-7184-1539
平成23年3月14日～4月30日まで（48日間）
※閉鎖後は、通常業務の中で対応する。



災害ボラセン掲示板

4. 設置に際しての主な検討内容

平成22年3月に策定した「我孫子市社会福祉協議会 大規模災害職員行動マニュアル」（以下「マニュアル」という）を基本とし、センター設置に向けて検討した主な事項。

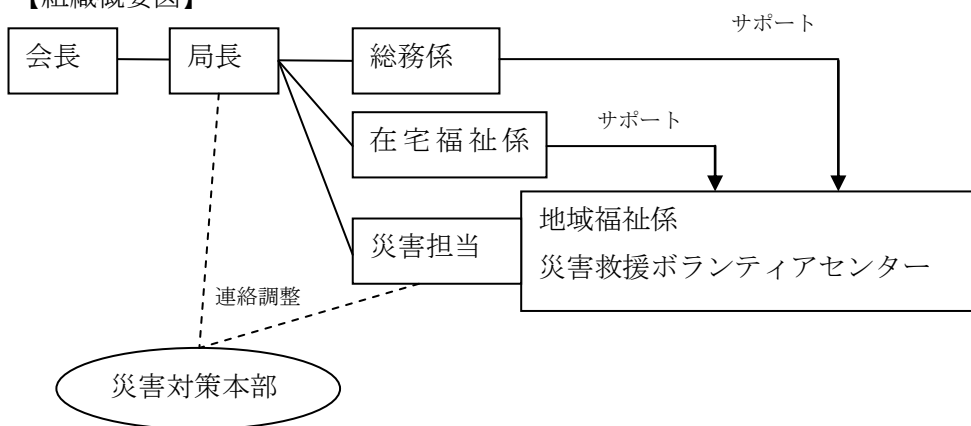
- ①我孫子市の被災状況が局地的であったこと。
 - ・市民全体からみれば、一部の被災であったこと。
 - ・布佐・都地域で発生した液状化現象による被災の多数を占めたこと。
- ②職員に大きな被災が無かったこと。
 - ・親族に被災を受けた職員がいたが、自身・家族への大きな被害報告は無かった。
- ③我孫子市災害対策本部との連絡・情報収集を容易に行える近い場所に設置すること。
 - ・事務所の建物に亀裂等もなく、マニュアルに沿い、設置場所を検討。
- ④あびこ市民活動ステーション（ボランティア市民活動相談窓口）が閉鎖されたこと。
 - ・マニュアルでは、設置先の候補にもなっていたが、10Fという立地もあり、余震でも大きな揺れがある為、設置には、向いていないことが判明した。
- ⑤東北3県の沿岸部及び茨城県沿岸部がかつてない甚大な被災が報じられていたこと。
 - ・かつてない大震災であり、より自助的（我孫子市内）活動の重要性が増すと思われた。
 - ・検討時点、今だ我孫子市は、災害救助法適用外であった。

5. 社協の組織体制

マニュアルを基本とし、初期段階では、出来る限り全職員で被災状況の確認及び要援護者の安否確認を行った。センター設置後、状況が落ち着く中で、およその担当割りを行なった。

- ①総務係：庶務及び地域福祉係のサポート役
- ②在宅福祉係：通常業務（個別援助活動）の復旧に努め、かつ、地域福祉係のサポート役
- ③地域福祉係：センター業務に従事する（その為、災害救援に関わらない事業については、中止及び延期をした）

【組織概要図】



6. 災害支援に対する社協及びセンターの業務

■社協業務

①災害弱者への安否確認・支援

在宅福祉係を中心に、出来る限り全職員で安否確認を実施。その後、在宅福祉係のみ実施。

②通常業務への復旧業務

情報収集と合わせ、随時、業務の復旧を行う。また、緊急性の低い事業や行事については、中止又は延期を検討した。

③共同募金会 事務局としての義援金の募集受付・街頭募金

地域福祉係で、3月14日（月）に、地区社協及び行政サービスセンター、本庁市民課窓口に募金箱を設置。

事務職全員で義援金の受付をした。また、3月に2回、SCコーディネーターを中心に街頭募金を実施した。

④福島県相馬市への救援物資募集と受付（我孫子市と共同）

受付を事務職員全員で対応。

■災害救援ボランティアセンター

⑤災害救援ボランティア派遣依頼 受付・コーディネート

⑥災害救援ボランティアの募集受付・コーディネート・保険の手続き

⑦災害対策本部等の支援

受付は、事務職全員で対応。コーディネートは、地域福祉係で実施。

7. 災害救援ボランティアセンター活動概要

1) 災害救援ニーズの把握

センターの最初の業務として、まず、被災者に「支援の手を差し伸べ、他者からの支援が受けられることを周知すべく」マニュアルに沿い、センター開設のチラシを作成し、最も被災が多かった布佐・都地区の住民へチラシを配布すると共に、被災地状況の把握に努めた。

①布佐・都地区へのローラー作戦（約 200 世帯）全 4 回

- ・ 3月14日（月）：「センター開設」チラシの配布
- ・ 3月21日（月）：「センター開設」「貸付制度」「傾聴ボランティア派遣」チラシ配布
※布佐地区社協委員他により、声かけも同時に実施。
- ・ 3月26日（土）27日（日）：チラシ配布
※布佐地区社協委員により、声かけも同時に実施。
- ・ 4月8日（土）9日（日）：チラシ配布
※布佐地区社協委員により、声かけも同時に実施。

②自治会回覧（9700部）

- ・ 4月4日（月）：センターについて A3 チラシを自治会へ回覧依頼

③広報あびこ 4月1日号・4月16日号

④社協だより 4月末号

2) 災害救援ボランティアの募集

被災が局地的であり、多くの市民が被災していない状況を踏まえ、「登録制」とし、我孫子市民又は近くに住んでいる方のみとした。ボランティアは、依頼があるまで自宅待機とした。これにより、ボランティア待機場所・駐車場等の設置が省かれ、事務局のレイアウトの変更もなく、社協業務も含め、事務局内でスムーズに業務を遂行することができた。なお、布佐地区については、布佐地区社協事務所を集合場所とした。

- ・ 3月13日（日）から、ブログ「ボランシカ日記」で情報提供
- ・ 3月14日（月）から、メールマガジン「ボランシカメール」で情報提供
- ・ 3月22日（火）災害ボランティア 152名登録、募集を中止。
※これ以上の募集でコーディネート業務が難しくなると判断。

3) 災害対策本部の支援

- ・ 物資保管所から物資の移動
- ・ つつじ荘避難所の炊き出し及び生活支援
- ・ 布佐・都地域へのチラシ配り（2回）
- ・ その他



布佐都地区（県道）泥（砂）に道路が埋る

【ボランティア派遣の流れ】

- ①電話等でボランティア依頼が入る。…支援ニーズ調査票
- ②職員による現地調査
- ③災害救援ボランティアを探す…災害ボランティア登録票及び名簿
- ④災害救援ボランティアを派遣する
現場に職員も同行し、資材の調達及び現場で調整を行う
- ⑤その他の支援が無いか確認し終了…支援ニーズ調査票

4) 派遣実績

主な活動は、つつじ荘避難所での炊き出し・家具の片付け・引越しの手伝い・庭の整理・土砂の片付けなどでした。また、布佐・都地区でのチラシ配りや街頭募金にもご協力いただいた。

4月下旬時点、我孫子市内でも最も甚大な被災があった布佐・都地区でのボランティア依頼も少なくなり、2日に1件程度となり、同月末日をもってセンターを閉鎖。

【ボランティア派遣状況】

- ①災害救援ボランティア登録者数 163名
- ②ボランティア派遣依頼件数 76件
- ③延べ派遣人数 312名

【主な活動】

- ①炊き出し (27日間) …27件
- ②家具の片付け…13件
- ③引越し…13件
- ④庭の整理…9件
- ④土砂の片付け…3件



布佐都地区 地盤沈下の様子

5) マッチングの課題

登録いただいた方々主な年齢層は、およそ高齢者・青少年・中高年の順であり、男女比はほぼ1:1。特殊な技術（マッサージ等）を持つ方もいたが、依頼内容（ニーズ）は、力仕事が多く、マッチングの難しさがあった。また、3月中はガソリン不足であった為、依頼の多かった布佐・都地区でのボランティア依頼には、徒歩や自転車で来られる方のみとなった事、4月上旬で春休みが終わり、青年層のボランティアが激減した事（土日の依頼が少なかった）が大きな要因となった。

しかし、地元企業によるボランティア登録もあり、20代・30代の男性社員が平日ボランティア活動にご協力いただいたケースもあった。

8. つつじ荘避難所(市外避難者用)の対応

東日本大震災による避難者、特に福島県東京電力第1原子力発電所の事故による放射能漏れ等による避難者の受入れをすべく、つつじ荘に避難所を開設。避難所での炊き出しを実施した。

【概要】

期間：3月21日（月）～4月30日（土）

場所：老人福祉センターつつじ荘

被災者：延べ14名（全て福島県の方）

※但し、4月18日（月）以降、避難者無し。

ボランティア派遣人数：延べ118名



つつじ荘避難所の炊き出し

【経過】

3月19日（土） 災害対策本部より、炊き出しボランティアの派遣及び管理について依頼

3月20日（日） 避難所設営 ボランティアを10名派遣（我孫子市青年会議所メンバー）。

3月21日（月） 最初の炊き出しを実施。炊き出しボランティア及び駐車場整理要員として延べ13名依頼したが、避難者が1世帯3名であった為、ボランティア2名（及び職員2名）派遣した。

3月22日（火）～27日（日） 天王台地区社協にボランティアを依頼。1日3名ずつ派遣。

3月28日（月）～31日（木） 湖北地区社協にボランティアを依頼。1日5～6名ずつ派遣。

4月1日（金）～16日（土） ふれあい弁当の会にボランティアを依頼。1日3～4名ずつ派遣。

4月17日（日） 食の会あびこにボランティアを依頼。5名派遣。

4月18日（月） 我孫子南地区社協にボランティアを依頼。5名派遣。

※なお、3月31日までは、職員も炊き出しに参加、調整を実施。

【考察】

避難者が少なかった事もあり、1日3名程度の炊き出しボランティアを派遣した。また、1ヶ月以上の長期に渡る支援が必要であり、日々の活動をセンターで個別にコーディネートすることが困難であった為、団体（組織）にボランティア派遣を依頼し、団体（組織）内でローテーションを組んで対応していただいた。

つつじ荘避難所に近い「天王台地区社協」「湖北地区社協」が3月31日まで炊き出しを行い、4月からは、「ふれあい弁当の会」「食の会あびこ」「南地区社協」に依頼した。日頃から、調理・炊き出しの経験ある方々であった為、事故もなく、スムーズに活動をしていただいた。

これは、平時でのボランティア団体の存在と調理や炊き出しの経験、また、日頃のネットワークが活かされた結果だった。また、布佐・都地区での「ふれあい弁当の会」「ふさの会」による炊き出しにも同様の事が言える。

9. センター設置の課題

我孫子市社会福祉協議会では、平成 22 年 3 月に策定した「大規模災害職員行動マニュアル」と全社協・県社協等で企画されていた「災害研修」は、行動する上で、たいへん役に立った。また、予め、防災備品が用意していたことで、「災害時に、備品を探し、購入する」作業を省くことができた。

しかし、今回の震災は、

- ①初めて「災害救援ボランティアセンター」を立ち上げたこと。
- ②過去に例のない規模の大震災であったこと。
- ③マニュアルは、新潟中越沖地震の長岡市や柏崎市を参考にし、「大規模災害時」（数百人～数千人が非難するような場合）を想定したマニュアルであったこと。
- ④我孫子市内の救援活動の中で、震災義援金募集や相馬市への物資募集、市外避難者への対応等を行ったこと。

などマニュアルの想定外であった為、戸惑った事も多々あった。過日、柏崎市で伺った「平時の活動が大切で、職員の指揮命令、職員間の連携、地元住民組織とのネットワークが重要であること」「情報収集と判断力が重要であること」を実感した。

以上の事柄を含め、また、災害時の情報格差や液状化による局地的な被害への対応など、今年度改訂を予定している「行動マニュアル」に反映し、災害に対処していきたい。

以上

東日本大震災の対応について 自治会アンケート調査

実施日 平成23年6月
 対象 市内180自治会
 方法 郵送（葉書）による回答
 回答数 141自治会（78.3%）

【アンケート調査の集計結果】

問1. 自治会の対応について

当てはまる項目に○を記入してください。【複数回答】

- ①特に自治会としては動いていない
- ②およそ被害状況の確認をした
- ③各戸ごとに確認をした
- ④人的（お手伝い）・金銭的（見舞金）支援を実施した
- ⑤その他の対応（下記へご記入ください）

【集計】

①特に自治会としては動いていない	…60件（42.5%）	} 合計 98件（69.5%）
②およそ被害状況の確認をした	…72件（51.0%）	
その内)		
一人暮らし高齢者や幼児のいる世帯・要介護者の安否確認	…05件	
③各戸ごとに確認をした	…26件（18.4%）	
④人的（お手伝い）・金銭的（見舞金）支援を実施した	…39件（27.7%）	
⑤その他の対応（下記へご記入ください）	…58件（41.1%）	
主な対応)		
・義援金募金活動を実施	…15件（10.6%）	
・共有財産や道路等の確認・補修など	…12件（8.5%）	
・防災備品（ブルーシート）の貸出	…03件（02.7%）	
・市外避難者への支援	…03件（02.7%）	

【考察】

「特に自治会として動いていない」が約4割だった。大きな被害を受けた方の状況も無く、特に動く必要性がなかった。管理会社が行っていた。という意見があった。また、60件の内、17件は「およそ被害状況を確認した」を選択しており、自治会が組織的に動いていないが、個人的、又は地域の方々の自主的な確認作業があった様子。

「各戸ごと確認をした」は、約2割で、各班長が確認した。などがあった。「およそ被害状況を確認した」は、①外から様子を伺った。②把握している一人暮らし高齢者世帯のみの確認などがあった。被害状況の確認については、個人的に見回りした。という件数も含め、約7割の自治会で実施されている。

「人的（お手伝い）・金銭的（見舞金）支援を実施した」は、隣近所のお手伝いも含まれている。見舞金の規定などを設けている自治会があった。

対外的な支援（震災への義援金活動・市外避難者への支援）も行われていた。「共有財産や道路等の確認・補修など」は、管理会社や我孫子市に補修を依頼していた様子でした。

問2. 今後の課題がありましたら教えてください【記述】

主な課題や対応）※自治会内の対応に関するもののみ

- ・災害時の対応マニュアルの作成・見直し、防災組織の見直し …12件
- ・災害弱者の安否確認や支援を実施する仕組みづくり …07件
- ・防災備品の確認・補充など …05件
- ・避難所が不確定で不安、避難場所の周知が出来ていない …04件
- ・帰宅困難者が多かった・日中の対応が難しい …03件

【考察】

「今後の課題」への記述は、75件（53.1%）で、半数以上の自治会で、課題があった。主な課題を集約すると…。

- 災害発生事後の対応方法（マニュアル）の検討
- 災害や防災に対応する組織の見直しや設置
- 安否確認の方法
- 平時の対応（避難訓練、防災備品、避難所の確認・周知など）

東日本大震災の対応について 市民活動団体アンケート調査

実施日 平成23年6月

対象 ボランティア・市民活動団体登録151団体

方法 団体代表者へ依頼、持参及びFAXでの回答

回答数 77団体 (51.0%)

1. あなたの団体は、震災の時に何か特別な活動をしましたか？（複数回答）

- | | |
|-------------------------------|------------|
| ①特別な活動をしていない | …25件 (32%) |
| ②会員の安否を確認した | …26件 (34%) |
| ③電話連絡網や会合などで、積極的に災害関連の情報を共有した | …17件 (22%) |
| ④会員で義援金の有志を募り、募金をした | …22件 (29%) |
| ⑤団体として、広く募金（チャリティー）活動を実施した | …09件 (12%) |
| ⑥団体として、災害救援ボランティア活動を実施した | …05件 (06%) |

【考察】

①から、「この震災に対して、特別な活動をした」は、約7割だった事になる。

主な対応は、

1) 会員の安否を確認した【約3割】

- ・これからの活動の連絡事項を含め、確認したケース
- ・決まっていた会合等で確認したケースなど

公共施設の閉館が決まったことあり、今後の活動について、各会員に連絡をとる必要性があった様子。また、会員の高齢化もあり、代表が安否を実施した団体もあった。

2) 義援金の募集や寄付をした（会員全員又は有志での寄付）【約3割】

自治会や個人で寄付しているので、特に実施しなかった団体もあったが、およそ3割の団体が実施している。

3) 災害関連の情報を共有した【約2割】

広報あびこやメディアでの報道などの情報を共有している様子。但し、布佐都地区の被災状況（我孫子市の被災状況）については、情報があまり共有されなかった様子。

4) チャリティー活動をした【約1割】

ボランティア・市民活動団体らしい活動だと言える。物資の提供が多かった様子。

その他、傾聴ボランティアや我孫子朗読の会、DIYヘルプが対象者（災害弱者）に対して、安否確認を実施していた事（朗読の会は、停電情報をテフ化し送付している）。災害救援活動をしていた団体（DIYヘルプ・布佐の会・ふれあい弁当の会・赤十字奉仕団・あびこシニアライフネットなど）

…以上